「ＫとＳの競演」

労働者委員　永田琢朗

私は16年間４Ｋ職場に勤務していた。４Ｋ職場とは俗に「暗い・きたない・きつい・くさい」職場環境をさす言葉だが，私が勤務していた職場は，鹿児島県高等学校教職員組合だ。頭文字を並べると４Ｋになる。事務室は1931年竣工の鹿児島県教育会館(K)にある。県当局との確定交渉(K)などでは，徹夜交渉になった上に妥結に向けてギリギリの判断を求められるなど，体力的にも精神的にも確かにきつい場面もあったし，土・日曜出勤も多かったが，平常は４Ｓ職場だった。つまり，「素晴らしい・素敵な・さわやかな・さっぱりした」職場だった(自画自賛に過ぎる気もするが)。なぜなら，職場の同僚は鹿児島県の高校教育を良くしようという志を同じくする者の集まりだし，大会等で大いに議論をした後は，決定した方針を執行していくという了解が得られているからである。また，仲間を支援する体制が取られていることも，仕事を遂行する上での安心感を与えてくれるものだった。

ここで労働環境の話を離れて，“K”と“S”に少しこだわって，鹿児島県の観光案内風の文章に続けて最近考えていることについて記してみたい。

鹿児島県(K)の旧国名は薩摩(S)だ(大隅・熊毛・奄美地方を除くことを許していただきたい)。新幹線(S)も全線開業し，新大阪駅(S)始発の直行便が鹿児島中央駅(K)に滑り込むと目の前に桜島(S)が姿を現し，錦江湾(K)も見えて来る。日豊本線に乗り換えると左手に霧島連山(K)が，指宿枕崎線の「たまて箱」に乗り換えると開聞岳(K)が眺望できる。食べ物・飲み物は実に豊富だ。黒豚(K)に黒牛(K)，さらには黒さつま鶏(K)まで登場している。さつま揚げ(S)も美味しい。飲み物は何と言っても焼酎(S)だ。飲み屋さんで「酒(S)と刺身(S)を」と注文すると，焼酎(S)とキビナゴ(K)がすぐさま出てきて県外客は大層驚かされる。最近では黒麹焼酎(K)が優勢だが，黄麹焼酎(K)も登場している。もちろん白麹焼酎(S)にこだわる人も多い。奄美群島では黒糖焼酎(K)も生産されている。薩摩焼(S)には黒薩摩(K)と白薩摩(S)がある。焼酎を黒じょか(K)やぐい飲みで楽しむならもちろん黒薩摩(K)がお勧めだ。魚はカンパチ(K)・カツオ(K)・キビナゴ(K)の刺身のほか，サバ(S)とスズキ(S)もおいしい。県内の市ではＫから始まるのは，鹿児島市・霧島市・鹿屋市の３つ，Ｓから始まるのは，薩摩川内市・志布志市・曽於市の３つで互角だ。町村ではＫは錦江町・肝付町・喜界町の３つ，Ｓはさつま町・瀬戸内町の２つだけである。これらの中では生まれ故郷の旧笠利町(K)から眺望できるにも拘わらず喜界町(K)には行ったことがない。大河ドラマ「平清盛」を放送している間にぜひとも訪問したいと思っている。

2011 年３月 11 日の東日本大震災・福島第一原発事故後は，日本人の絆(K)の重要性が強調され，ボランティア活動や義援金のカンパ(K)など多くの支援も行われた。また原発再稼動反対や廃炉に向けての署名活動(S)も活発に取り組まれている。災害廃棄物の処理や節電等，実行すべきことは多い。東北地方の復旧・復興は震災１年後の今でも明確な見通しが立っていない。日本全体での支援が一層強く望まれる。

労働・雇用(K)環境も不景気が長期化する中，厳しさが継続している。組合側(K)(労働者側)と使用者側(S)も少子(S)高齢(K)社会の到来を見据えた上で，この厳しい状況を打開するための新しい労使関係を作り直す時期に来ているのではないかと思う。相手を説き伏せる説明(S)ではなく，労使双方に，ひいては社会全体に利益をもたらすためにも，実効性のある交渉(K)ルールの創造が今こそ求められている。労働者が４S 職場と感じられる職場が増えることを願うばかりである。